

2024（令和6）年度

# 事業計画

学校法人 龍谷大学

---

# 目 次

---

## I 法人の概要

1	建学の精神	1
2	設置学校・所在地	3
3	役員・評議員	5
4	沿革（学校法人龍谷大学）	7
5	教育研究組織〈龍谷大学・龍谷大学短期大学部〉	9
6	法人組織機構図	10

## II 事業計画の概要

1	中期計画について	12
	（1）大学部門	12
	（2）高等学校・中学校部門	14
2	中期計画における2024（令和6）年度の特徴的な取組	15
	（1）大学部門	15
	○新たな教学展開について	
	○教学充実方策について	
	○研究力の強化を図るための取組について	
	○深草キャンパス施設整備計画について	
	○瀬田キャンパスの活性化・施設設備の充実について	
	○イノベーションハブ拠点「共創HUB京都」（仮称）について	
	（2）高等学校・中学校部門	26
	○生徒が輝く学校づくりに向けて	
	○特色ある教育の取組について	
	○校長を中心としたガバナンス改革について	
	○施設等の充実について	

## III 財務の概要

1	学校法人龍谷大学の予算について	27
	（1）事業目的別予算	28
	（2）資金収支予算	34
	（3）事業活動収支予算	35

# I 法人の概要

## 1 建学の精神

学校法人龍谷大学は、浄土真宗本願寺派を母体とし、教育基本法及び学校教育法に従い、浄土真宗の精神に基づく教育を施すことを目的として設立された。本法人は、この目的を達成するために「龍谷大学」、「龍谷大学短期大学部」、「龍谷大学付属平安高等学校」及び「龍谷大学付属平安中学校」を設置しており、建学の精神を次のとおり顕すとともに、各学校の学則において、その設置目的を定めている。

### 龍谷大学

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

#### <龍谷大学の設置目的 —龍谷大学学則第1条—>

本学は教育基本法及び学校教育法にしたがい、浄土真宗の精神に基づく大学として、広く知識を授けるとともに、深く専門の諸学科を教授研究し、併せて有為の人材を養成することを目的とする。

#### <龍谷大学短期大学部の設置目的 —龍谷大学短期大学部学則第3条—>

本学は、教育基本法並びに学校教育法による短期大学として、浄土真宗の精神に基づき実際に即した専門の教育を施し、併せて有為の人材を養成することを目的とする。

## 龍谷大学付属平安高等学校・中学校

龍谷大学付属平安高等学校・中学校の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへと転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自分中心の勝手な考え方にとられるのではなく、広く柔らかな考え方ができるようになるのです。

本校は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育てます。このことを実現するための日常の心得として以下の3つの「大切」を掲げています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

### ことばを大切に

正確な言葉・やさしい言葉・ていねいな言葉

### じかんに大切に

今という時間・青春という時間・人生という時間

### いのちを大切に

いただいているいのち・願われているいのち・支えられているいのち

<龍谷大学付属平安高等学校の設置目的 一龍谷大学付属平安高等学校学則第1条一>

本校は、教育基本法、学校教育法並びに私立学校法により、高等普通教育及び専門教育を施し、特に仏教精神に基づく情操教育を行う。

<龍谷大学付属平安中学校の設置目的 一龍谷大学付属平安中学校学則第1条一>

本校は、教育基本法、学校教育法並びに私立学校法により、中等普通教育を施し、特に仏教精神に基づく情操教育を行う。

---

## 2 設置学校・所在地

---

### ■設置学校

- ◆龍谷大学
- ◆龍谷大学短期大学部
- ◆龍谷大学附属平安高等学校
- ◆龍谷大学附属平安中学校

---

### 龍谷大学

#### 【所在地】

- ・深草キャンパス（所在地：京都市伏見区深草塚本町 67）
- ・大宮キャンパス（所在地：京都市下京区七条通大宮東入大工町 125-1）
- ・瀬田キャンパス（所在地：滋賀県大津市瀬田大江町横谷 1-5）

#### 【その他の主な施設】

- ・Ryukoku University Berkeley Center（RUBeC：ルーベック）  
（所在地：アメリカ合衆国 カリフォルニア州 バークレー）
- ・Ryukoku University Hawaii Office（所在地：アメリカ合衆国 ハワイ州 ホノルル）
- ・大阪梅田キャンパス  
（所在地：大阪市北区梅田 2-2-2 ヒルトンプラザウエストオフィスタワー14階）
- ・龍谷大学アバンティ響都ホール（所在地：京都市南区東九条西山王町 31 アバンティ 9階）
- ・龍谷ミュージアム（所在地：京都市下京区西中筋正面下る丸屋町 117）
- ・龍谷大学深草町家キャンパス（所在地：京都市伏見区深草直違橋 6-303）
- ・南大日グラウンド（所在地：京都市山科区勸修寺南大日）
- ・龍谷大学農学部牧実習棟（所在地：滋賀県大津市牧 2丁目）
- ・龍谷大学農学部牧農場（所在地：滋賀県大津市牧 2丁目）
- ・龍谷大学農学部堂農場（所在地：滋賀県大津市堂 1丁目）
- ・艇庫（所在地：滋賀県大津市螢谷 2-39）

## 龍谷大学付属平安高等学校・中学校

### 【所在地】

- ・京都市下京区北小路通大宮西入御器屋町 30 番地

### 【設置コース等】

#### <龍谷大学付属平安高等学校 全日制課程普通科>

- ・特進コース（国公立・難関私立大学進学コース）
- ・プログレスコース（龍谷大学進学コース）
- ・アスリートコース（硬式野球部コース）

#### <龍谷大学付属平安中学校>

### 【その他の主な施設】

- ・花背学舎（所在地：京都市左京区花背別所町 633 番地）
- ・亀岡グラウンド（所在地：亀岡市千歳町毘沙門）
- ・龍谷大平安ボールパーク（所在地：京都市伏見区醍醐上端山町 1-1）

### 3 役員・評議員

学校法人龍谷大学 役員

(2024年3月31日現在)

役職	選任にかかる寄附行為の条項等	氏名	非業務執行理事
理事長	第8条第1項第1号	荻野 昭裕	
専務理事	第8条第1項第6号	入澤 崇	
常務理事	第8条第1項第7号	神戸 修	
		松木平淳太	
		大門 弘幸	
		安藤 徹	
		深尾 昌峰	
理事	第8条第1項第2号 浄土真宗本願寺派総長の推薦する総務3名	日谷 照應 ※	○
		三好 慶祐 ※	○
	第8条第1項第3号 浄土真宗本願寺派総長の推薦する学識経験者12名以上 15名以内	弘中 貴之 ※	○
		安永 雄彦 ※	○
		桑羽 隆慈 ※	○
		浅野 弘毅 ※	○
		松原 功人 ※	○
		霍野 廣紹 ※	○
		高屋 顕裕 ※	○
		池田 行信 ※	○
		河原 善雄 ※	○
		赤松 徹眞 ※	○
		福山 哲郎 ※	○
		三田 真史 ※	○
		山階 照雄 ※	○
	石上 智康 ※	○	
	第8条第1項第4号 浄土真宗本願寺派宗会議長	園城 義孝 ※	○
		第8条第1項第5号 評議員のうちから理事会の推薦する者	足利 善彰 ※
	玉木 興慈		
	小峯 敦		
長谷川岳史			
丹羽 徹			
岸本 直之			
井上 辰樹			
清水 耕介			
村田 和代			
竹歳 一紀			
吉川 悟			
黒川雅代子			
第8条第1項第11号	東澤 雄二		
第8条第1項第12号	山脇 護		
監事	第9条第1項 評議員会の同意を得て、理事長が選任する者3名	佐藤 研司 ※	
		野村 明雄 ※	
		齊藤 雄彦 ※	

- ・※印の役員については、私立学校法第44条の2第1項に基づく損害賠償責任について、同条第4項及びその準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第115条並びに学校法人龍谷大学寄附行為第16条の5の規定に基づき、本法人と責任限定契約を締結している。
- ・本法人は全ての役員を被保険者とする役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結しており、被保険者が私立学校法第44条の2第1項の損害賠償責任に起因して損害賠償請求がなされたことにより生じる損害を補償している。

役職	選任にかかる寄附行為の条項等	氏名
評議員	第17条第2項第1号 龍谷大学及び龍谷大学短期大学の教育職員のうちから11名	鍋島 直樹
		佐々木 淳
		鈴木 学
		落合 雄彦
		三好 力
		山田 容
		磯江 源
		松浦さと子
		樋口 博也
		東 豊
		阪口 春彦
	第17条第2項第2号 龍谷大学及び龍谷大学短期大学の事務職員のうちから5名	花崎 正順
		河村由紀彦
		田中 雅子
		青木 千義
		松山 幸司
	第17条第2項第3号 付属平安高校及び付属平安中学校の教育職員及び事務職員のうちから1名	燧土 勝徳
	第17条第2項第4号 龍谷大学又は龍谷大学短期大学部を卒業した者で、年齢25年以上の者のうちから4名	松浦 俊昭
		菅谷 幸弘
		町田 徳男
		荒川林太郎
	第17条第2項第5号 付属平安高校又は付属平安中学校を卒業した者で、年齢25年以上の者のうちから1名	寺村 篤
	第17条第2項第6号 龍谷大学及び龍谷大学短期大学部に在籍する学生の保護者のうちから1名	寺田 崇雄
	第17条第2項第7号 浄土真宗本願寺派宗会議員のうちから7名	西村 敏夫
		塩月 光夫
		加藤 一英
		広野 允士
		藤山 憲二
		滋野 眞
那須野浄英		
第17条第2項第8号 浄土真宗本願寺派部長たる宗務員のうちから2名	葛谷 英淳	
	松下 昌文	
第17条第2項第9号	理事就任者	
第17条第2項第10号 この法人に関係のある学識経験者11名	竹中 了哲	
	足利 善彰	
	小川 信正	
	菅原 俊軌	
	藤田 裕之	
	光岡 理學	
	鹿多 証道	
	大杉 住子	
	加藤 尚史	
	野瀬 善隆	

## 4 沿革(学校法人龍谷大学)

1639年 (寛永16)	本願寺派学寮として創設される。
1650年 (慶安3)	学寮の制条(学則)を定める。
1655年 (明暦元)	幕府の命により学寮を破却、以後東中筋魚欄下ル仮屋の学林で講義を行う。
1695年 (元禄8)	東中筋学林町に学林講堂・衆寮を再建する。
1871年 (明治4)	学林敷地の土地により、本願寺廓内へ移転する。
1872年 (明治5)	はじめて洋学を開講する。
1875年 (明治8)	林門改正により学校制度を採用し、普通学を開講する。
1876年 (明治9)	本派の学制により大教校となる。
1879年 (明治12)	大教校(現大宮学舎本館・南北両翼)落成する。
1885年 (明治18)	普通教校(現大宮学舎東翼)開講する。
1888年 (明治21)	大学林条例を発表し、考究院・内学院および文学寮の二院一寮制を採用する。
1900年 (明治33)	学制を更改し、仏教大学となる。
1905年 (明治38)	専門学校令により、仏教大学として認可される。
1922年 (大正11)	大学令により、旧制大学として大学設立の認可をうけ、龍谷大学となる。
1949年 (昭和24)	学制改革により新制大学(文学部)として認可される。
1950年 (昭和25)	短期大学部仏教科を設置する。
1953年 (昭和28)	大学院文学研究科修士課程(真宗学真宗史専攻、仏教学仏教史専攻)を設置する。
1955年 (昭和30)	大学院文学研究科博士課程(真宗学真宗史専攻、仏教学仏教史専攻)を設置する。
1960年 (昭和35)	親鸞聖人700年大遠忌記念事業として伏見区深草に深草学舎を開設する。
1961年 (昭和36)	経済学部経済学科を設置する。
1962年 (昭和37)	短期大学部に社会福祉科を増設する。
1963年 (昭和38)	経済学部に経営学科を増設する。
1966年 (昭和41)	経営学部経営学科を設置する。 大学院文学研究科修士課程と博士課程に真宗学、仏教学、哲学、国史学、東洋史学、国文学各専攻を設置する。 (真宗学真宗史、仏教学仏教史各専攻廃止)
1967年 (昭和42)	大学院文学研究科修士課程と博士課程に英文学専攻を設置する。
1968年 (昭和43)	法学部法律学科を設置する。 文学部社会学科を設置する。
1971年 (昭和46)	大学院文学研究科修士課程に社会学・社会福祉学専攻を設置する。
1972年 (昭和47)	大学院法学研究科法律学専攻修士課程を設置する。
1974年 (昭和49)	大学院法学研究科法律学専攻博士課程を設置する。
1982年 (昭和57)	大学院経済学研究科経済学専攻修士課程を設置する。
1984年 (昭和59)	大学院経営学研究科経営学専攻修士課程を設置する。 大学院文学研究科社会学・社会福祉学専攻(修士課程)を分離し、博士課程に社会学、社会福祉学各専攻を設置する。
1985年 (昭和60)	大学院経済学研究科経済学専攻博士課程を設置する。 大学院経営学研究科経営学専攻博士課程を設置する。 留学生別科を設置する。 短期大学部専攻科仏教専攻を設置する。
1987年 (昭和62)	龍谷大学創立350年記念の一環として大津市瀬田大江町字横谷に瀬田学舎を開設する。
1989年 (平成元)	理工学部数理情報学科、電子情報学科、機械システム工学科、物質化学科を設置する。 社会学部社会学科、社会福祉学科を設置する。
1991年 (平成3)	大学院社会学研究科社会学専攻、社会福祉学専攻(修士課程・博士課程)を設置する。 瀬田学舎にRyukoku Extension Center(REC)を設置する。

1992年 (平成4)	文学部仏教学科真宗学専攻、文学科国文学専攻、文学科英文学専攻を真宗学科、日本語日文学科、英語英米文学科に改組する。 法学部政治学科を設置する。 短期大学部専攻科福祉専攻を設置する。
1993年 (平成5)	大学院理工学研究科数理情報学専攻、電子情報学専攻、機械システム工学専攻、物質化学専攻(修士課程)を設置する。
1994年 (平成6)	大学院文学研究科教育学専攻(修士課程)を設置する。
1995年 (平成7)	大学院理工学研究科数理情報学専攻、電子情報学専攻、機械システム工学専攻、物質化学専攻(博士課程)を設置する。
1996年 (平成8)	国際文化学部国際文化学科を設置する。 大学院文学研究科国文学専攻を日本語日文学専攻に、英文学専攻を英語英米文学専攻に名称変更する。
1997年 (平成9)	文学部、経済学部、経営学部には昼間主・夜間主コースを開設する。
1998年 (平成10)	社会学部地域福祉学科、臨床福祉学科を設置する。
2000年 (平成12)	大学院国際文化学研究科国際文化学専攻(修士課程)を設置する。 大学院文学研究科教育学専攻(博士課程)を設置する。 大学院国際文化学研究科国際文化学専攻(博士課程)を設置する。
2002年 (平成14)	理工学部情報メディア学科、環境ソリューション工学科を設置する。
2003年 (平成15)	社会学部コミュニケーションマネジメント学科を設置する。
2004年 (平成16)	大学院法務研究科(法科大学院)法務専攻を設置する。
2005年 (平成17)	経済学部現代経済学科、国際経済学科を設置する。 アメリカ合衆国カリフォルニア州バークレーに海外拠点として Ryukoku University Berkeley Center (RUBeC)を設置する。
2007年 (平成19)	大学院理工学研究科情報メディア学専攻、環境ソリューション工学専攻(修士課程)を設置する。
2009年 (平成21)	龍谷大学が創立370周年を迎える。 大学院実践真宗学研究科(修士課程)を設置する。 大学院理工学研究科情報メディア学専攻、環境ソリューション工学専攻(博士課程)を設置する。
2011年 (平成23)	政策学部政策学科を設置する。 大学院政策学研究科政策学専攻(修士課程・博士課程)を設置する。 短期大学部こども教育学科を設置する。 短期大学部社会福祉科を社会福祉学科に名称を変更する。 龍谷ミュージアムを開館する。
2012年 (平成24)	文学部臨床心理学科を設置する。 大学院文学研究科臨床心理学専攻(修士課程・博士課程)を設置する。 文学部史学科を歴史学科に名称を変更し、史学科国史学専攻を歴史学科日本史学専攻に名称変更する。 文学研究科国史学専攻を日本史学専攻に名称を変更する。 深草町家キャンパスを開設する。
2013年 (平成25)	農学部植物生命科学科、資源生物科学科、食品栄養学科、食料農業システム学科を設置する。 国際学部グローバルスタディーズ学科、国際文化学科を設置する。
2015年 (平成27)	学校法人平安学園と法人合併する。 文学部歴史学科文化遺産学専攻を設置する。 社会学部現代福祉学科を設置する。 龍谷大学付属平安高等学校が創立140周年を迎える。 大学院農学研究科食農科学専攻(修士課程・博士課程)を設置する。
2016年 (平成28)	龍谷大学創立380周年を迎える。 大学院国際学研究科国際文化学専攻、グローバルスタディーズ専攻(修士課程・博士課程)、言語コミュニケーション専攻(博士課程)を設置する。
2018年 (平成30)	先端理工学部を設置する。
2019年 (平成31)	心理学部心理学科を設置する。 農学部植物生命科学科を生命科学科に名称を変更し、資源生物科学科を農学科に名称変更する。
2020年 (令和2)	大学院先端理工学研究科先端理工学専攻(修士課程・博士課程)を設置する。
2023年 (令和5)	心理学部心理学科を設置する。 農学部植物生命科学科を生命科学科に名称を変更し、資源生物科学科を農学科に名称変更する。
2024年 (令和6)	大学院先端理工学研究科先端理工学専攻(修士課程・博士課程)を設置する。

---

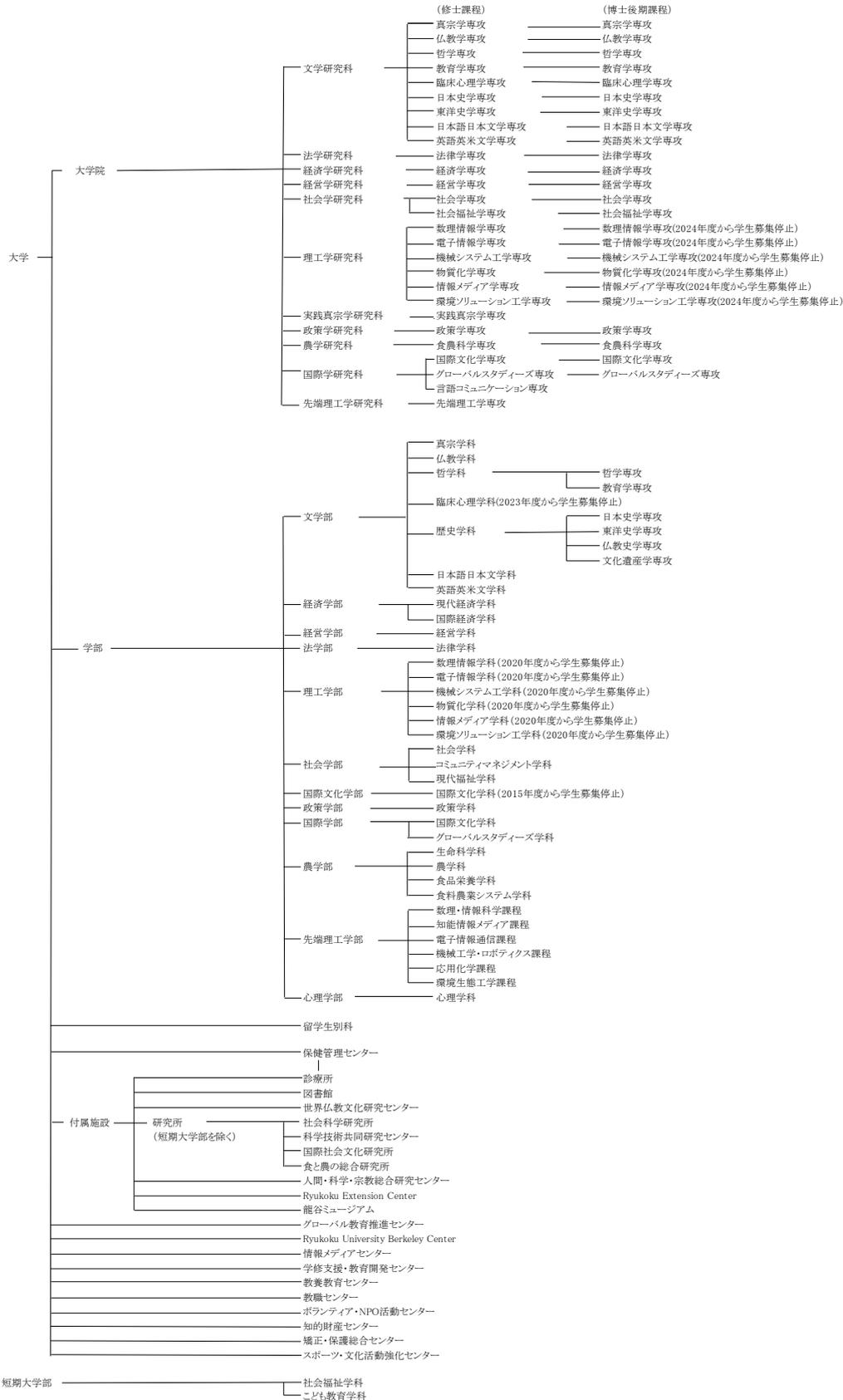
## 【参考】沿革(学校法人平安学園)

---

- 1876 (明治 9) 年 本校の前身たる金亀教校を滋賀県彦根市に開校。
- 1902 (明治 35) 年 第 3 仏教中学と改称。
- 1909 (明治 42) 年 京都市の現在地に移転。
- 1910 (明治 43) 年 私立平安中学校と名のる。
- 1936 (昭和 11) 年 室戸台風による校舎全壊のため、本館並びに普通教室 20 を新築。
- 1937 (昭和 12) 年 理科教室を新築。
- 1947 (昭和 22) 年 新制度による平安中学校を設立。
- 1948 (昭和 23) 年 新制度による平安高等学校 (普通) を設立。
- 1950 (昭和 25) 年 平安高等学校商業科及び仏教課程設置。
- 1952 (昭和 27) 年 図書館竣工。
- 1963 (昭和 38) 年 第 1 期工事 (北校舎, 体育館等) 竣工。
- 1969 (昭和 44) 年 第 2 期工事 (南新校舎, 本館改装等) 竣工。
- 1970 (昭和 45) 年 亀岡グラウンド完成。
- 1975 (昭和 50) 年 創立 100 周年記念事業の体育館棟の大改修完成。
- 1976 (昭和 51) 年 創立 100 周年。記念校舎等諸施設竣工。
- 1978 (昭和 53) 年 商業科募集停止。
- 1979 (昭和 54) 年 第 3 期工事 (北校舎新館) 竣工。
- 1982 (昭和 57) 年 第 4 期工事 (礼拝堂・図書館・普通教室) 竣工。
- 1985 (昭和 60) 年 平沢興奨学金創設。
- 1986 (昭和 61) 年 創立 110 周年。110 記念体育館竣工。中高 6 ヶ年一貫制発足。
- 1995 (平成 7) 年 龍谷大学と教育連携。
- 1996 (平成 8) 年 創立 120 周年。
- 1998 (平成 10) 年 創立 120 周年記念本館竣工。
- 2003 (平成 15) 年 男女共学校となる。光顔館竣工。  
平安高等学校アスリート・クリエイト・プロGRESSの 3 コース制発足。
- 2006 (平成 18) 年 創立 130 周年。
- 2007 (平成 19) 年 至心館竣工。
- 2008 (平成 20) 年 龍谷大学附属平安中学校、龍谷大学附属平安高等学校と校名変更。
- 2012 (平成 24) 年 龍谷大平安ボールパーク竣工。
- 2014 (平成 26) 年 第 1 次リニューアル工事完工。  
ー北校舎耐震化・グラウンド人工芝化・照明 LED 化ー  
平安高等学校アスリート・プロGRESS・選抜特進の 3 コース名変更。
- 2015 (平成 27) 年 第 2 次リニューアル工事完工。  
ー南校舎耐震化・中庭コミュニケーションテラス・吹奏楽部練習場  
女子トイレ増設・全校舎トイレウォシュレット化ー  
学校法人龍谷大学と法人合併。

(以降の沿革は、学校法人龍谷大学に併せて記載)

## 5 教育研究組織＜龍谷大学・龍谷大学短期大学部＞



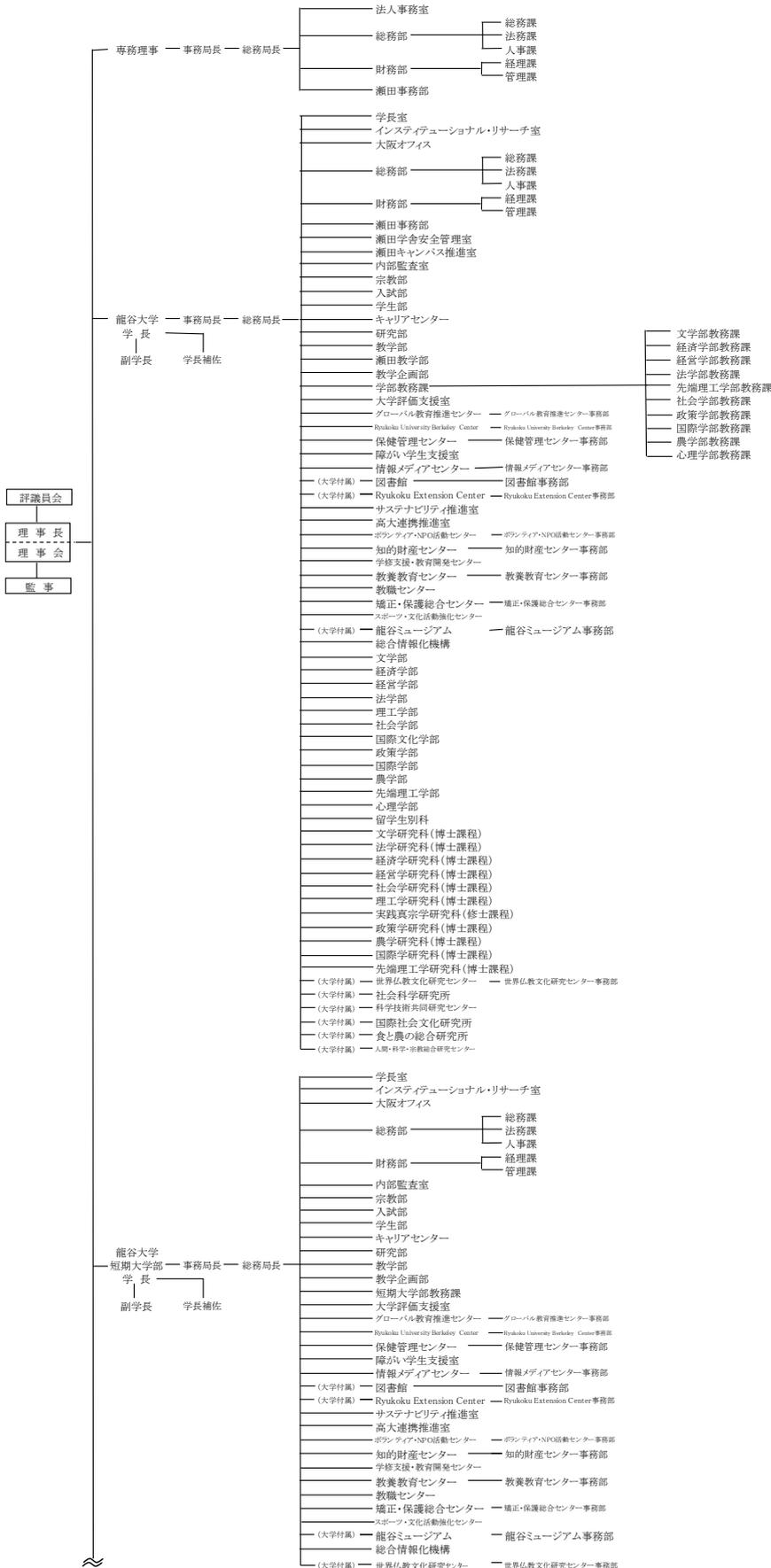
(注)

①大学学長は、短期大学部学長を兼ねる。

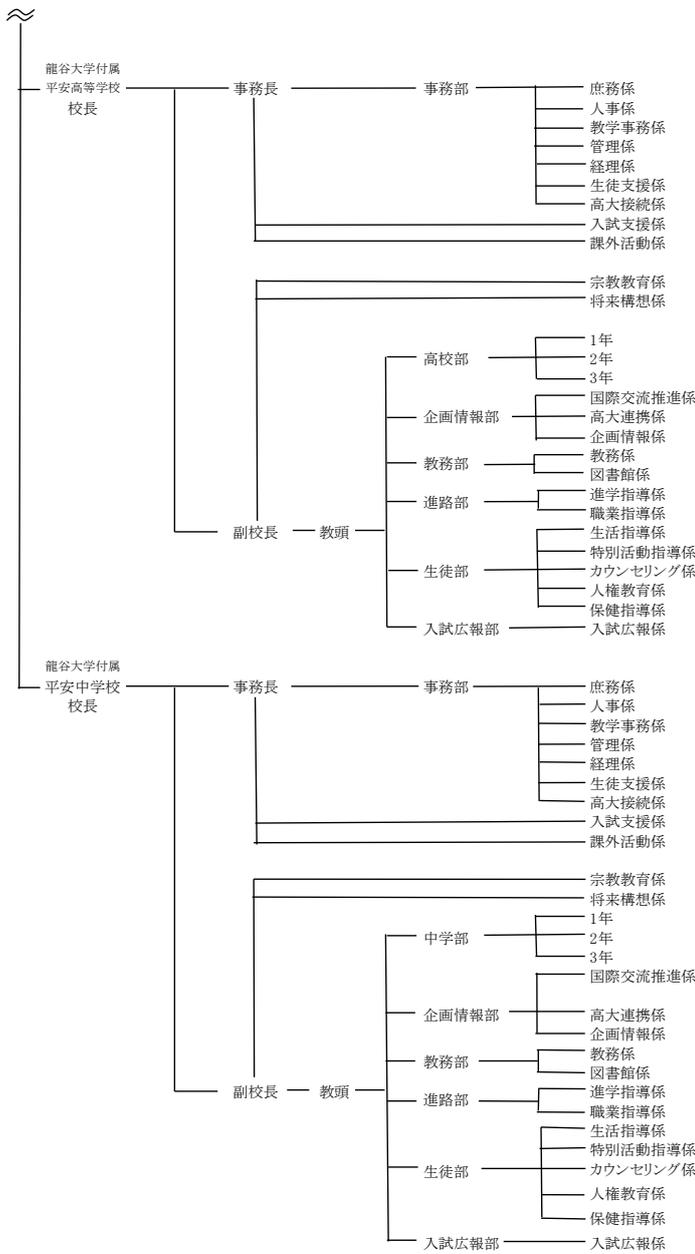
②大学の付属施設内の、診療所、図書館、世界仏教文化研究センター、Ryukoku Extension Center及び龍谷ミュージアムは短期大学部の付属施設を兼ねる。

③大学の保健管理センター、グローバル教育推進センター、Ryukoku University Berkeley Center、情報メディアセンター、学修支援・教育開発センター、教養教育センター、教職センター、ボランティア・NPO活動センター、知的財産センター、矯正・保護総合センター及びスポーツ・文化活動強化センターは短期大学部の教育組織を兼ねる。

# 6 法人組織機構図



(注) 龍谷大学の各学部、留学生別科、大学院各研究科、各研究所、各研究センター(世界仏教文化研究センターを除く)、各学部教務課、瀬田事務部、瀬田学舎安全管理室、瀬田キャンパス推進室及び瀬田教育学部を除く全ての組織は、龍谷大学短期大学の組織を兼ねている。



(注) 龍谷大学付属平安高等学校の高校部を除く全ての組織は、龍谷大学付属平安中学校の組織を兼ねている。

## II 事業計画の概要

### 1 中期計画について

建学の精神である「浄土真宗の精神」に基づく教育活動を展開するとともに、各学校が定める中期計画に基づく事業を推進することで、高等教育機関・中等教育機関としての社会的責務を果たし、学校法人としての持続的な発展を図る。

なお、第2期中期計画<2024-2027年度>においては、本法人を取り巻く環境変化を踏まえ、「4つの事業テーマ」(A 価値創造の推進、B 体験価値向上、C 経営革新及びD 共創空間の創出)を新たに設定し、それにもとづくアクションプランを掲げる。

#### (1) 大学部門

本学は、2020年度より、創立400周年を迎える2039年度までの20年間に及ぶ長期計画「龍谷大学基本構想400」(以下、「構想400」という。)を定め、これに基づく諸改革に取り組んでいる。

この構想400は、環境変化などに柔軟かつ機動的に対処するため、具体的な施策は1期4年の「中期計画」として取り纏め、それを5期にわたって積み上げることとしている。

2024年度からは、第1期中期計画<2020-2023年度>の成果と課題を踏まえて策定した第2期中期計画<2024-2027年度>を始動する。

#### ①第2期中期計画の概要

<b>第2期中期計画</b> ＜2024-2027年度＞	<b>サステナビリティへの「旅」ー変革の加速へー</b> <b>Frontier of Change: Quest for Sustainability</b>
<b>【第2中計の要諦】</b>	
<ul style="list-style-type: none"><li>▶ 「サステナビリティへの『旅』ー変革の加速へー」(Frontier of Change: Quest for Sustainability)を副題とし、旅(≡体験×共創×挑戦)を足掛かりに、価値創造へ</li><li>▶ 急激な環境変化や第3中計以降の18歳人口の減少局面を見据え、第2中計は「変革」を加速させる重要な4年間と位置づける</li></ul>	

#### ②アクションプラン

第2期中期計画では、構想400で掲げる2039年の将来ビジョンへの達成を加速させるべく、新たに「4つの事業テーマ」と、それにもとづく「21のアクションプラン」を掲げることとした。

初年度にあたる2024年度は、アクションプランごとの事業計画を具体化し、着実な推進を図ることとする。

## 【第2中計アクションプラン一覧（龍谷大学・龍谷大学短期大学部）】

### A. 価値創造の推進

#### A-1 社会課題の解決拠点化

- ① 仏教SDGsの推進による社会課題の解決拠点化

#### A-2 研究の高度化と社会実装の強化

- ② 地球規模の課題解決及び社会実装を見据えた研究の推進
- ③ 総合大学としての総合知による研究力の高度化を促進

### B. 体験価値向上

#### B-1 環境変化に対応する教育プログラムの開発と教育方法の高度化

- ④ 選抜から接続への転換を通じた学生募集改革、及び新たな学生像に対応した教育改革の一体的推進
- ⑤ 海外拠点の有効活用と拡充、グローバル教育プログラムの拡充
- ⑥ 地球規模の視野に立ち、他者と協働し未来社会をデザインできる人材の育成・輩出
- ⑦ 環境変化に対応した学修支援及び教育職員の資質向上
- ⑧ 教学組織等の再編・統合・新展開

#### B-2 ひとりひとりに寄り添った学生支援体制と多様な体験の促進

- ⑨ 学生の主体的なキャリア形成の促進と個別最適化による支援の強化
- ⑩ 正課外の諸活動を通じた多様な体験の促進

### C. 経営革新

#### C-1 価値創造を促進する組織への転換、人材のトランスフォーメーション

- ⑪ 大学、各学部・学科等における定員規模の最適化と競争力の最大化
- ⑫ 全体最適化が可能となる新たな財政の枠組み整備と収入の確保
- ⑬ DXの推進及び積極的なチャレンジが生み出されるような業務構造改革による価値創造型事務組織への転換
- ⑭ 個人の能力とモチベーションを最大限引き出す組織・制度への転換と事務職員の能力・資質向上

#### C-2 意思決定の高度化とレジリエントな運営体制の構築

- ⑮ 非常事態に対して柔軟かつ迅速に対応することが可能な大学運営体制の確立
- ⑯ 理事及び管理職位者の権限と責任の明確化並びに各種会議体の機能の再整理

### D. 共創空間の創出

#### D-1 多様な価値観が集うキャンパスの実現

- ⑰ 多様なステークホルダーが集う「共創」拠点の具現化
- ⑱ DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）の推進
- ⑲ 自治体、企業・他法人等と連携した「共創型」運営体制の実現

#### D-2 キャンパスデザインの構築と戦略的広報

- ⑳ 総合的なキャンパスデザインの構築
- ㉑ 様々なステークホルダーとの共創による戦略的広報の推進

## (2) 高等学校・中学校部門

2020 年度に策定した「第 1 期中期計画<2020-2023 年度>」が今年度末をもって終了することに伴い、2024 年度からは、第 1 期中期計画の成果と課題を踏まえて策定した「第 2 期中期計画<2024-2027 年度>」を始動する。

### ①第 2 期中期計画の概要

龍谷大学付属平安高等学校・中学校では、建学の精神に基づき、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成することを第一義とし、第 1 期中期計画中に策定した『教育基本構想 2030-HEIAN VISION 2030-』を基盤として次の教育展開をはかるとともに、それに必要な財政・施設・人事（教職員）体制等を整備する。

- ・基礎学力の向上をはかり、龍谷大学の附属校として同じ建学の精神のもとで教育を受けた質の高い生徒を送り出す<プログレスコース>。
- ・国公立及び難関私立大学へ進学できる学力を身につけた質の高い生徒を送り出す<中高一貫・選抜特進コース>。
- ・基礎学力を身につけるとともに、心・技・体・知を磨くことで、人間形成の向上をはかり、社会性を身につけた質の高い生徒を送り出す<アスリートコース>。

また、龍谷大学付属平安高等学校・中学校は、2026（令和 8）年に創立 150 周年を迎える。本校では、創立 150 周年を重要なターニングポイントとして捉え、本校が伝統を大切にしながら改革に進む学校であることを示すこと等を目指した第 2 期中期計画を策定する。

### ②アクションプラン

第 2 期中期計画では、中等教育を取り巻く環境変化を踏まえ、将来ビジョンへの達成を加速させるべく、新たに「4つの事業テーマ」と、それにもとづく「7 のアクションプラン」を掲げる。

#### 【第 2 中計アクションプラン一覧（龍谷大学付属平安高等学校・中学校）】

##### A. 価値創造の推進

- ① いじめを許さない学校づくり
- ② 「三つの大切」を具現化する基盤教育の展開

##### B. 体験価値向上

- ③ 理数系教育の充実に向けた支援体制の充実
- ④ 生徒が主体的に学ぶ授業改革の推進

##### C. 経営革新

- ⑤ カリキュラム改革に連動する学校改革・財政改革の推進

##### D. 共創空間の創出

- ⑥ 生徒の学びが促進される教育設備環境の充実
- ⑦ 創立 150 周年を迎えリブランドされる学校価値の創造

## 2 中期計画における 2024(令和 6)年度の特徴的な取組

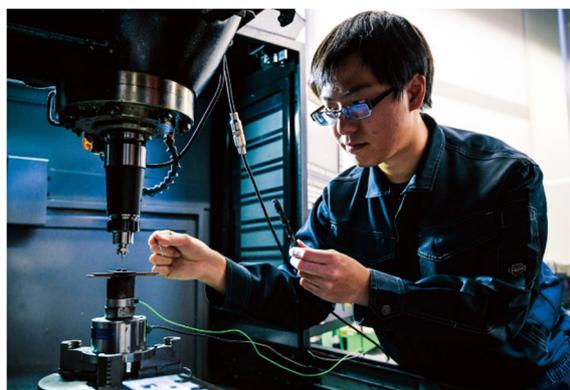
### (1) 大学部門

#### ○新たな教学展開について

##### 大学院先端理工学研究科の開設

2024 年 4 月、理工学研究科を改組し、新たに「先端理工学研究科」を設置する。先端理工学部理念を土台に、幅広い教養と理工学の各専門分野における高度の専門知識・技能を身につけ、持続可能な社会の発展に貢献できる高い倫理観を持った高度専門職人材・研究者を育成する。特色ある 6 つのコースを設定し、専門分野の枠を超えた分野横断的な学びが可能となる弾力的なカリキュラムを展開する。

修士課程では、大学院生としての幅広い教養と倫理意識を涵養する「大学院教養科目」を開講するとともに、テーマに基づき科目をグループ化した「プログラム」を設定する。また、博士後期課程では、コースの垣根を超えて互いに研究内容を紹介し、ディスカッションする「サイエンスコミュニケーション」により、異なる研究領域への理解とプレゼンテーション能力を育成する。



##### 社会学部総合社会学科※、経営学部商学科※、大学院心理学研究科※の開設に向けた準備

※仮称、2025 年 4 月開設予定（構想中）

2025 年度に、社会学部を瀬田キャンパスから深草キャンパスに移転し、社会学と社会福祉学を総合した「総合社会学科（仮称）」を設置する計画である。また、経営学部新たに「商学科（仮称）」を開設し、現行の経営学科との 2 学科制にする予定である。さらには、心理学部の教育理念と文学研究科臨床心理学専攻で培った実績、教学資源を発展充実させることを目的として、「心理学研究科（仮称）」の設置を計画している。これら 3 つの新たな教学展開に向けて、2024 年度は必要な行政手続きを着実に実施するとともに、新学科・新研究科開設に向けた準備を進める。

なお、設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。



## ○教学充実方策について

2024年度より、「構想400」実現のための予算枠として、「大学政策推進費」を新設する。

この「大学政策推進費」は、既存の「構想400アクションプラン事業費」、「学部教学充実費」及び「採択型学部等教学充実費」に加え、2024年度に新設する「大学院教学充実費」及び「全学共創充実費」の5つの費用を包摂した予算費目として位置づける。

### <大学政策推進費>

#### (1) 構想400アクションプラン事業費

○構想400APに即した学部や部署が連携して実施する事業費用

#### (2) 学部教学充実費

○各学部における教学充実費用

#### (3) 採択型学部等教学充実費

○新たな教育プログラム創出に係る費用

#### (4) 大学院教学充実費

○大学院の改革・充実に資する費用

#### (5) 全学共創充実費

○全学的な教育研究環境充実のための教育コーディネーター、URA等に係る事業経費

### (1) 構想400アクションプラン事業費による教学展開

構想400アクションプランに基づき、学部や部署が連携しながら実施する事業に対して予算枠を設けており、その上限を2023年度比125%として教学展開を図る予定である。具体的には、「STEAM版コモンズを活用した学生の主体的学修活動支援」、「地域連携型教育(CBL)プログラムのモデル化および質保証の実質化」事業など、計31事業(事業予算合計126,960千円)の実施を予定している。

構想 400 アクションプラン事業費 事業一覧

No.	事業名	主担当部署
1	深草キャンパスの施設整備に伴うキャンパスの空間デザイン演出	学長室（広報）
2	瀬田キャンパス活性化の推進にかかる総合戦略費	瀬田キャンパス推進室
3	先導的な取組の具現化に資する外部人材とのネットワーク構築	
4	無人コンビニの運営補助	瀬田事務部
5	瀬田キャンパスにおける電動アシスト型シェアサイクルの導入	
6	学生宿泊施設における予約システムの導入	
7	大学生活スタートアップ事業	学生部（深草）
8	外国人留学生の就職活動支援高度化プログラム	キャリアセンター
9	瀬田キャンパスにおける理系学生に対する就職活動支援充実	
10	卒業生アンケートの実施	
11	研究広報の強化施策	研究部
12	ライフイベントに係る研究活動復帰支援制度	
13	データサイエンス教育プログラムの実施	教学部
14	英語科目における外部試験の導入	瀬田教学部
15	英語力の向上を目指す多読指導	
16	学生状況把握に係るアセスメントテストの実施	教学企画部
17	学生による授業観察にもとづく授業支援の実施	
18	教学マネジメントの確立に向けた教学 I R の充実・強化	
19	ライティングサポートセンターの運営	
20	文学部における学科・専攻横断型の人文系 PBL 科目の運営(旧：地域協働と学科・専攻横断による実践的学修プログラムの構築－人文知を活かした新たな社会活動の試み－)	文学部 教務課
21	大宮コモンズにおけるスチューデントコモンズの運営	
22	地域連携型教育（CBL）プログラムのモデル化および質保証の実質化	政策学部 教務課
23	「STEAM 版コモンズ」を活用した学生の主体的学修活動支援	先端理工 学部教務課
24	先端理工学部グローバル人材育成を目指す ASEAN 体感プログラム	
25	先端理工学部・農学部 公募推薦入学者を対象とした入学前課題の実施	

No.	事業名	主担当部署
26	低炭素社会の実現に向けた食料システム構築のための「アグリDX」人材の育成	農学部 教務課
27	<大学生生活スタートアップ事業>フレッシュャーズキャンプにかかわる学生生活ガイダンスの実施	短期大学部 教務課
28	グローバル・キャリア・チャレンジプログラム Global Career Challenge Program	グローバル教育推進センター事務部
29	龍谷大学グローバルパスポート制度の導入	
30	イングリッシュラウンジを活用した実践的な英語コミュニケーション力の養成～「使える英語」を身につけるための学生の自学自習支援のための環境整備～	
31	障がい学生支援の充実（UD トーク）	障がい学生支援室

## （２）学部教学充実費による教学展開

学部独自の教学促進を目的とした事業に対して予算枠を設け、社会学部改組移転を契機とした特色ある海外プログラムの構築事業や、複数の学部において、初年次の学生に対する読解力や文章表現力の強化を目的とした事業、キャリア形成支援事業、将来的なカリキュラム改革を見据えた調査事業など、全学で計 46 事業（事業予算合計 68,317 千円）の実施を予定している。

### 学部教学充実費 事業一覧

No.	事業名	主担当部署
1	文学部における履修証明プログラムの実施	文学部 教務課
2	今後の教学展開検討に向けた現状分析調査	
3	文学部における体験型講義の実施	
4	文学部入学生を対象とした基礎学力の向上	
5	文学部基礎演習における「クリティカルシンキング・ロジカルライティング」講義の実施	
6	文学部における学科横断型授業プログラムの開発と実施	
7	文学部における低年次を中心とした学修支援体制の構築	
8	文学部歴史学科文化遺産学専攻シンポジウムの開催	

No.	事業名	主担当 部署
9	心理学部におけるキャリア関連科目の展開	心理学部 教務課
10	「フレッシュヤーズゼミ」におけるクリティカルシンキング・ロジカルライティング講義の実施	
11	経済学部「フェスタ」開催による主体的学びの発信	経済学部 教務課
12	経済学部における授業内ピア・サポーター制度の導入	
13	経済学部での初年次教育におけるクリティカルリーディングの向上	
14	経済学部でのデータサイエンス教育の充実を目的とした「日経・授業支援パッケージ」の導入	
15	経済学部における海外研修プログラムの実施	
16	高校生・大学生がともに学べる社会人基礎力体験プログラム（経営学部一附属平安高等学校連携事業）	経営学部 教務課
17	プログラム科目「現代中国のビジネス」の実施にかかる学生への補助	
18	今後の教学展開検討を見据えた現状分析事業（法学部）	法学部 教務課
19	キャリア啓発科目の開設	
20	法学部版アクティブラーニング推進事業	
21	法学部「法政ブリッジセミナー」の運営補助	
22	グローバル人材育成にかかるグローバルフォーラムへの参加	政策学部 教務課
23	Ryu-SEI GAP 学生と教員が協働して取り組む Active Learning の新たな展開	
24	「政策実践・探究演習（海外）」欧米プログラム	
25	「政策実践・探究演習（海外）」アジアプログラム	
26	政策学部生の TOEIC テスト受験に対する支援事業	
27	Zoom を用いた教育展開の実施	
28	TOEIC IP テスト受験料補助	
29	海外インターンシップ受入先開拓	

No.	事業名	主担当 部署
30	先端理工学部科目「フレッシューズセミナー」におけるロジカルライティング講義の実施	先端理工学部教務課
31	先端理工学部 3 年次生を対象とした TOEIC® Listening & Reading Test (IP テスト) の団体受験	
32	先端理工学部の教育資源・成果に関する情報発信の強化	
33	改組・移転にかかる調査分析	社会学部 教務課
34	社会学部改組に伴う新学部独自海外プログラムの構築	
35	農学部生の専門キャリアを見据えた資格取得支援事業	農学部 教務課
36	食の循環実習における主体的学修を促す取り組み	
37	大学ブランド商品(大学農場の収穫物を活用した)開発を通じた特色ある教育の展開	
38	農学部生の TOEIC テスト受検推奨・支援事業	
39	「GPS-Academic」の実施	
40	「大学生基礎力レポートⅡ」の実施	
41	「いのち」を考えるための実践的教育プログラム	短期大学 部教務課
42	『ともに支援する<いのち>』プロジェクト	
43	こども教育多目的室の活用事業	
44	企業と連携した製品アイデアコンテストの実施(農学部と共催)	
45	実習教育を補完する社会福祉フィールドワーク	
46	1 年生のためのキャリアアップガイダンス	

### (3) 採択型学部等教学充実費（龍谷 IP 事業）による教学展開

新たな教育プログラムの創出により、本学の教学促進・充実を図ることを目的とした企画選定事業「龍谷 IP」(Ryukoku Inventive Program)として、部署連携・全学組織申請型4事業、学部単独申請型4事業、萌芽型1事業の計9事業（事業予算合計32,942千円）を展開する。

あわせて、当該取組の進捗状況や成果について大学ホームページや成果報告会等を通して、学内で共有化を図るとともに広く社会に情報発信する。また、2025年度龍谷 IPを募集し、新たな教学シーズの掘り起こしと学内における教育改革・改善に向けた意識の向上を図る。

#### 採択型学部等教学充実費 事業一覧

No.	種別	取組名称	取組主体等
1	部署連携・全学組織申請型	龍谷大学だからこそその3キャンパス共通オンライン授業の展開	ユヌスソーシャルビジネスリサーチセンター、仏教SDGs推進協議会、学修支援・教育開発センター、教学部
2		産農学連携をベースとした複合領域型プロジェクトの推進	農学部、経営学部
3		瀬田学舎の教育基盤充実のための”Ryukoku Botanical Garden”整備を通じた実践型学修プログラムの展開	農学部、先端理工学部
4	学部単独申請型	社会連携型ソーシャル・イノベーション人材養成プログラム	政策学研究科、龍谷エクステンションセンター
5		ビジネスの手法を用いた社会課題解決のための教育プログラム開発	経営学部
6		法学部メンターシッププログラムの挑戦的拡充	法学部、キャリアセンター
7		市民的教養を起動する教養教育プログラムの開発	教養教育センター
8	萌芽型	京都府および「京都老舗の会」との連携による地域産業活性化プロジェクト	経済学部
9		「国際共修科目」の設置に向けた調査およびFDの展開	グローバル教育推進センター事務部

### (4) 大学院教学充実費による教学展開

### (5) 全学共創充実費による教学展開

「大学院教学充実費」及び「全学共創充実費」については、今後、大学院教学充実及び全学的な教育研究環境充実に係る事業計画が具体化した段階で予算化する。

## ○研究力の強化を図るための取組について

### リサーチ・アドミニストレーター（URA）について

2024年度から、研究戦略支援や産学連携支援等、外部資金に基づく研究活動を推進する専門職としてリサーチ・アドミニストレーター（URA）を新たに任用することを予定している。同制度の導入により、公的な研究開発支援事業等の外部研究資金への申請を増やすことを目指している。

また、リサーチ・アドミニストレーターの任用によって、国の政策や産業界の研究開発の動向を分析し、本学の強みを活かした研究戦略を立案し、推進していく。これまで以上に、教員が研究に専念できるよう、研究に関する環境整備に努める。

### 龍谷フラグシップ研究PJ・学際的研究PJについて

新たに本学の多様な専門性を持つ研究者で構成する研究拠点を形成するため、「龍谷フラグシップ研究プロジェクト」および「学際的研究プロジェクト」をスタートさせる。本研究プロジェクトは本学の「強み」または「特色」となる研究を推進するものである。

これらの研究プロジェクトを推進することにより、本学の研究力を社会に発信するとともに、コレクティブインパクトを創出し、本学の研究力に対する評価を向上させることも目指している。今後、強みや特色ある研究・地域貢献を生み出す核となる研究プロジェクトとして育成していく。

#### 龍谷フラグシップ研究プロジェクト 一覧

No.	研究テーマ
1	生物多様性保全に向けた技術革新と保全行動の社会的価値の実質化

#### 学際的研究プロジェクト 一覧

No.	研究テーマ
1	文化財・学術資料のデジタルアーカイブによるデジタルヒューマニティーズと多面的公開の基盤形成
2	カーボンニュートラル社会の実現に向けた革新的材料・プロセス研究
3	微生物の有用機能を介した発酵醸造学とスポーツ栄養学の融合とマネジメントによる滋賀県域における応用展開

## ○深草キャンパス施設整備計画について

2025年4月の社会学部の深草キャンパス移転と新たな教学展開を踏まえ、施設整備計画を策定している。深草キャンパスを北・南・西にエリア分けし、教育・研究・社会貢献及び大学運営をより効果的に推進するための各機能のゾーニングや、これまで一般道路で隔てられていた南エリアと北エリアを上空通路（歩道橋）で接続して、南北一体となった教育・研究エリアの実現を目指すことなど、「深草を森にする」をコンセプトとした整備計画の実現に向けて事業を推進する。また、キャンパスの省エネルギー化等を含む、将来ビジョンに対応した施設整備を進める。



【北エリア 2号館北側新棟（仮称） イメージ】



【南エリア 10・11号館跡地新棟（仮称） イメージ】

## 〇瀬田キャンパスの活性化・施設設備の充実について

瀬田の目指す姿である「共創をキーワードに龍谷大学の変革を先導するキャンパス」を実現すべく、その活性化方策の推進に向けて整理された考え方（キーワード）である「先導」「共創」「デジタル」「グリーン」を踏まえた事業を展開する。特に、近畿圏で同じキャンパスに、理工系学部と農学系学部を設置しているのは他大学にはない本学の強み・特色であり、先端理工学部及び農学部が共創する新たな教育研究活動の具現化を図る。

2025年4月に社会学部が深草キャンパスへ移転することを踏まえ、自然科学系を中心とした理系の行動様式を先取りするサイエンスキャンパスの構築に向けた施設設備の検討を加速化させるとともに、樹心館と2号館エリアを瀬田の新たな交流・共創スペースに位置づけ、共創を実現する新たなキャンパスデザインを推進する。

また、これらの取組に加え、多様なステークホルダーとの共創による脱炭素社会の実現やサステナブルな社会の構築に寄与する取組の検討にも着手し、キャンパスブランド構想で掲げる「自然科学を中心に展開し、地域の特性を生かした価値創造や社会変革を牽引する拠点」の形成を目指す。



【樹心館横 交流・共創スペース「Green Deck（グリーンデッキ）」 イメージ】



【2号館中庭 交流・共創スペース「Sky Deck（スカイデッキ）」 イメージ】

## 〇イノベーションハブ拠点「共創 HUB 京都」（仮称）について

社会課題の解決や新たな価値創造を牽引する拠点として、京都駅前の京都市立芸術大学新キャンパスの隣接地に「共創 HUB 京都」（仮称）を開設するプロジェクトを進めている。

新拠点の設置にあたっては、龍谷大学と京都信用金庫、大阪ガス都市開発の3者でコンソーシアムを組織し、各者が有するリソースやネットワークを活用することで、社会課題解決に繋がる産業創出やコミュニティ形成、人材育成などを推進する。

新拠点には、龍谷大学のサテライトキャンパスのほか、スタートアップ支援に特化した京都信用金庫の支店や交流型学生寮など様々な機能を備える予定である。また、本学の学生に留まらず、他大学の学生や社会人などにも広く開放することで、従来型の大学キャンパスでの展開を超えた「学び」や「成長」の機会を提供する計画である。2027年度中の竣工を予定している。

### 「共創 HUB 京都」コンセプト

— 「集い」・「暮らし」・「挑戦し」・「創る」が有機的に循環する  
共創型の新しいエコシステム —



【共創 HUB 京都 イメージ】



【京都市との基本協定締結式】



【共創 HUB 京都の主な機能（予定）】

## (2) 高等学校・中学校部門

### ○生徒が輝く学校づくりに向けて

「学校生活が楽しい」と生徒が心から思える環境づくりに向けて、いじめを許さない学校づくり等を引き続き強化する。そのために建学の精神に基づく「宗育（徳育）」を根幹とする教育により、他を思いやり、人がともに成長できる環境を築き上げていく。また、生徒が主体的に生徒会活動やクラブ活動に取組める支援体制について充実させるとともに、自らの進路選択に向けた支援体制の充実や体育祭や文化祭等の学校行事の在り方についても検討を進めることで、生徒が中心となって活躍できる学校創りを進める。

### ○特色ある教育の取組について

中学校では、個々人の基礎学力向上を前提としながら、理数教育と英語教育へ特に注力する。理数教育では、琵琶湖の水質調査や龍谷大学理系学部との連携事業を用いた理数探究合宿を実施する。また英語教育では過年度より実施している English Day を高校生と連携する等、中高一貫教育を充実させることで生徒が深い学びを体感できるように取組む。

高等学校では、「総合的な探究の時間」を中心とした生徒が主体的に学ぶ機会を積極的に提供する。特にプログレスコースでは、龍谷大学との高大連携事業である「ライフキャリアプログラム」における教育内容の充実を図ることで生徒と教員が一体となって自発的に学ぶ姿勢の向上を目指す。



### ○校長を中心としたガバナンス改革について

諸課題を含めた教育改革を迅速かつ的確に実現するため、校長直属の補佐的組織として教育改革推進本部を設置する。教育改革推進本部は、各部署間を横断的に統括すること及び対話的に諸課題へ取組むことで校内組織の活性化と教職員・生徒の帰属意識を高めることを図る。

### ○施設等の充実について

2025年3月竣工予定である「黎明館」の運用に向けて準備を進める。特に黎明館へ新たに設置する図書館機能を包括した HEIAN Media Lab. では、「主体的・自主的な学び」と「協働的・対話的な学び」が共存する空間となることから、什器や家具、ICT教育環境等の機能性については生徒・教職員の声を踏まえながら慎重に検討を進める。



【黎明館 イメージ】

### Ⅲ 財務の概要

#### 1 2024(令和6)年度予算の概要

##### ■学校法人龍谷大学の予算について

2024(令和6)年度予算は、予算編成の基本方針に則り、新たな教学展開やそれに付随する施設設備の充実・更新に対応するため、さらなる経営努力に取り組むとともに、財政状況の改善に努めることとしている。

龍谷大学・短期大学部における収入においては、財政改革に基づく学費改定に伴う学生生徒等納付金収入の増、深草キャンパス施設整備等に関する防災機能等強化補助金による補助金収入の増等を反映した。支出においては、構想400アクション・プラン事業費、深草キャンパス施設整備費、黎明館建設費等に関する予算を計上するとともに、構想400上半期財政改革に係る経費の見直しの方針に基づき、各部署における見直し経費を反映し、予算を編成した。

龍谷大学付属平安高等学校・中学校における収入においては、受験生の増加傾向による手数料収入及び創立150周年事業寄付金募集開始による寄付金収入の増等を反映した。支出においては、多角的な観点から精査をおこなった上で、教育研究費支出等を計上するとともに、平安エリアの施設設備整備計画に基づく施設設備整備費を反映し、予算を編成した。

その結果、2024年度の事業活動支出比率は91.9%となった。なお、2024年度における各学校特殊要因を控除した場合は92.8%となった。

2024年度の事業目的別予算における予算規模は、総額約613億5千7百万円となり、これに係る主な事業内容は、以下のとおりである。

# 1 事業目的別予算

## 事業目的別予算書総括表(法人全体)

2024(令和6)年4月1日から  
2025(令和7)年3月31日まで

収入の部

支出の部

(単位:千円)

科目	予算額	前年度予算額	差異	科目	予算額	前年度予算額	差異
1. 学生生徒等納付金収入	25,824,586	25,685,163	139,423	1. 人件費支出	16,291,629	16,226,665	64,964
2. 手数料収入	1,537,975	1,509,279	28,696	2. 教育研究費支出	8,980,612	8,849,750	130,862
3. 寄付金収入	344,508	363,162	△ 18,654	3. 管理維持費支出	2,493,395	2,592,266	△ 98,871
4. 補助金収入	5,305,724	4,973,349	332,375	4. 職員厚生福利費支出	188,273	186,842	1,431
5. 資産売却収入	0	300,000	△ 300,000	5. 運営費支出	1,112,012	1,156,024	△ 44,012
6. 付随事業収入	367,392	373,298	△ 5,906	6. 一般施設等借入金 元利返済金支出	270,003	277,019	△ 7,016
7. 受取利息・配当金収入	1,129,324	1,040,328	88,996	7. 施設設備整備費支出	21,993,902	11,190,392	10,803,510
8. 雑収入	520,011	721,358	△ 201,347	8. 引当金・積立金支出	2,717,573	4,192,582	△ 1,475,009
9. 借入金等収入	17,000,000	3,000,000	14,000,000	9. 予備費	360,000	320,000	40,000
10. その他の収入	1,431,646	4,578,628	△ 3,146,982	10. 次年度繰越収支差額	6,949,882	7,896,115	△ 946,233
11. 前年度繰越収支差額	7,896,115	10,343,090	△ 2,446,975				
収入の部合計	61,357,281	52,887,655	8,469,626	支出の部合計	61,357,281	52,887,655	8,469,626

## 【事業目的別予算 収入の部 概要】

### [1] 学生生徒等納付金収入 [25,824,586千円]

龍谷大学・短期大学部では、心理学部の学年進行等に伴う学生数の増加及び学費改定に伴う新入生の授業料の増額を反映した。

龍谷大学付属平安高等学校・中学校では、生徒数の減少により授業料・施設設備資金の減額を反映した。

<前年度予算比:約1億3千9百万円増(大学 1億6千万円増、高・中 2千1百万円減)>

### [2] 手数料収入 [1,537,975千円]

龍谷大学・短期大学部では、入試環境の変化や近畿圏の18歳人口の減少等を勘案しつつ、2022年度実績及び本年度の志願動向を加味し、増額を反映した。

龍谷大学付属平安高等学校・中学校では、2023年度決算見込額及び過去の実績を加味し、増額を反映した。

<前年度予算比:約2千8百万円増(大学 2千6百万円増、高・中 2百万円増)>

### [3] 寄付金収入 [344,508千円]

龍谷大学・短期大学部では、寄付募集活動を継続して実施するも、保護者・校友会・法人等

からの寄付金収入について、過年度の寄付金状況等を勘案し、減額を反映した。

龍谷大学付属平安高等学校・中学校では、創立 150 周年記念事業寄付金の募集開始及び保護者会等からの寄付金収入について、過年度の寄付金状況等を考慮に入れ算定し、増額を反映した。

<前年度予算比：約 1 千 8 百万円減（大学 2 千 8 百万円減、高・中 1 千万円増）>

#### [4] 補助金収入 [5, 305, 724 千円]

龍谷大学・短期大学部では、経常費補助金のうち一般補助の減額を反映する一方、修学支援制度補助金、構想 400 深草キャンパス施設整備に係る防災機能等強化補助金の増額を反映した。

龍谷大学付属平安高等学校・中学校では、国庫補助金、京都府運営費補助金及びその他の補助金における過去の実績及び生徒数減少等を見越した本年度の申請見込み状況を踏まえ検討し、減額を反映した。

<前年度予算比：約 3 億 3 千 2 百万円増（大学 3 億 4 千 6 百万円増、高・中 1 千 4 百万円減）>

#### [5] 資産売却収入 [0 千円]

特記事項なし

<前年度予算比：3 億円減（大学 3 億円減）>

#### [6] 付随事業収入 [367, 392 千円]

龍谷大学・短期大学部では、留学生寮の寮費改定に伴う増額を反映する一方、受託研究費見込の減少等に伴う減額を反映した。

龍谷大学付属平安高等学校・中学校では、学生寮（野球部用）への入寮者減少に伴う寮費等の減等を算定し、減額を反映した。

<前年度予算比：約 5 百万円減（大学 ほぼ同額、高・中 5 百万円減）>

#### [7] 受取利息・配当金収入 [1, 129, 324 千円]

龍谷大学・短期大学部では、資金運用の多様化により受取利息等の増額を反映した。

<前年度予算比：約 8 千 8 百万円増（大学 8 千 8 百万円増、高・中 ほぼ同額）>

#### [8] 雑収入 [520, 011 千円]

龍谷大学・短期大学部では、施設整備利用料収入の減額を反映するとともに、私立大学退職金財団交付金について、退職予定者分を反映した。

龍谷大学付属平安高等学校・中学校では、京都府私学退職金財団交付金について、退職予定者分を反映した。

<前年度予算比：約 2 億 1 百万円減（大学 約 2 億 2 千 2 百万円減、高・中 2 千 1 百万円増）>

[9] 借入金等収入 [17,000,000 千円]

龍谷大学・短期大学部では、龍谷大学深草キャンパス施設整備計画に伴う新規借入の増額を反映した。

<前年度予算比：140 億円増（大学 140 億円増）>

[10] その他の収入 [1,431,646 千円]

龍谷大学・短期大学部では、各特定資産の目的に応じた支出の原資である取崩収入の増減等を反映した。

龍谷大学付属平安高等学校・中学校では、教職員への貸付金回収収入の増額を反映した。

<前年度予算比：約 31 億 4 千 6 百万円減（大学 31 億 5 千万円減、高・中 4 百万円増）>

[11] 前年度繰越収支差額 [7,896,115 千円]

## 【事業目的別予算 支出の部 概要】

### [1] 人件費支出 [16,291,629 千円]

龍谷大学・短期大学部では、人件費について、若手教職員のベースアップや、職務限定職員の勤続手当の引き上げ等を反映した。また、採用予定数は実員をもって、退職者については予定者数をもって予算計上した。

龍谷大学付属平安高等学校・中学校では、教員の専任化を図るための予算を反映するとともに、働き方改革関連法に則った時間外勤務手当の支給を行うための予算を反映した。また、採用予定数は実員をもって、退職者については予定者数をもって予算計上した。

<前年度予算比：約6千4百万円増（大学 4百万円減、高・中 6千8百万円増）>

### [2] 教育研究費支出 [8,980,612 千円]

龍谷大学・短期大学部では、教育費については、構想400アクション・プラン事業費において、2024年度からの新規事業を含み31の事業に係る予算を計上した。また、2023年度に採択された文部科学省「人文・社会科学系ネットワーク型大学院構築事業」に係る事業費等を計上した。研究費については、「重点強化型研究推進事業」の後継事業である「龍谷フラッグシップ研究プロジェクト」及び「学際的研究プロジェクト」に係る事業費を計上した。また、先端理工学部における大型実験機器購入に伴う大型実験設備更新費を計上した。

龍谷大学付属平安高等学校・中学校では、創立150周年記念事業の本稼働により150周年記念事業委員会運営費の増額を反映する一方、対象生徒数の減少を見込んだ奨学生奨学金・授業料減免奨学金等の減額及び非常勤講師採用を見越した派遣講師費の減額を反映した。

<前年度予算比：約1億3千万円増（大学 1億5千9百万円増、高・中 2千9百万円減）>

### [3] 管理維持費支出 [2,493,395 千円]

龍谷大学・短期大学部では、人件費及び物価等の高騰による守衛業務等の業務委託費の増額を反映する一方、建物等改修費の減額を反映した。

龍谷大学付属平安高等学校・中学校では、派遣職員の継続採用により派遣職員派遣委託費の増額を反映する一方、校舎解体に伴う業務委託費の減額を反映した。

<前年度予算比：約9千8百万円減（大学 8千4百万円減、高・中 1千4百万円減）>

### [4] 職員厚生福利費支出 [188,273 千円]

特記事項なし

<前年度予算比：約1百万円増（大学 1百万円増、高・中 ほぼ同額）>

### [5] 運営費支出 [1,112,012 千円]

龍谷大学・短期大学部では、電算事務システム開発・運営費において新法人システムの開発費、人事課運営費において新法人システムの導入に伴う給与計算業務等の外部委託費の増額を反映した。一方、式典等運営費において2019年度卒業生対象「卒業式・修了式」等の諸

行事費用、総務課運営費において百縁夕食事業費用、瀬田事務部運営費において学生への食支援事業費用の減額等を反映した。

龍谷大学附属平安高等学校・中学校では、人事給与システムに係るデータ移行に伴い人事係運営費の増額を反映する一方、サブグラウンドフェンス等設置終了により亀岡グラウンド運営費の減額を反映した。

<前年度予算比：約4千4百万円減（大学 3千6百万円減、高・中 8百万円減）>

[6] 一般施設等借入金元利返済金支出 [270,003 千円]

龍谷大学・短期大学部では、既存借入の年次償還計画にもとづく返済額に加え、2024年度新規借入予定分（170億円）の支払利息を反映した。

龍谷大学附属平安高等学校・中学校では、年次償還計画に基づく返済額を反映した。

<前年度予算比：約7百万円減（大学 1千7百万円増、高・中 2千4百万円減）>

[7] 施設設備整備費支出 [21,993,902 千円]

龍谷大学・短期大学部では、深草キャンパス施設整備費に加え、黎明館建設費、深草キャンパスにおけるワンストップ事務室等の整備、瀬田キャンパスにおける学生用宿泊施設の整備等の増額を反映した。

龍谷大学附属平安高等学校・中学校では、平安エリア施設設備整備事業に係る費用を中心に計上した。

<前年度予算比：約108億3百万円増

（大学 119億9千8百万円増、高・中 11億9千5百万円減）>

[8] 引当金・積立金繰入支出 [2,717,573 千円]

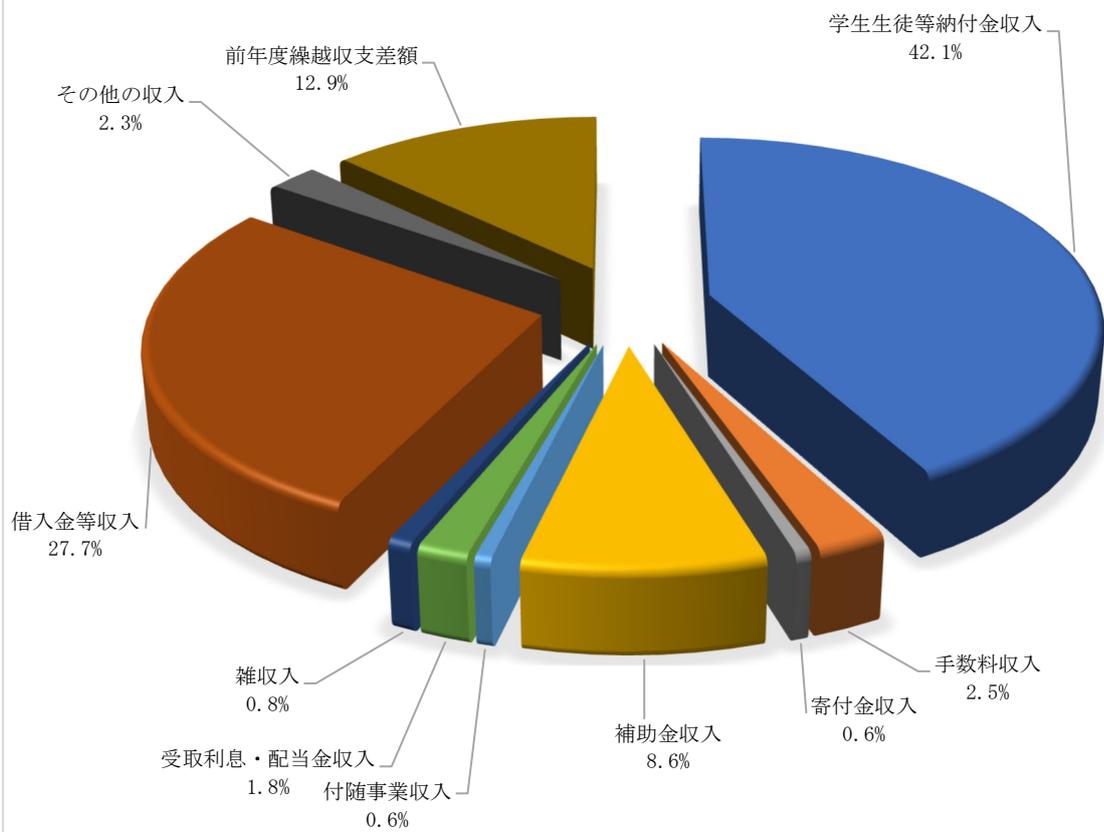
特記事項なし

<前年度予算比：約14億7千5百万円減（大学 14億5千5百万円減、高・中 2千万円減）>

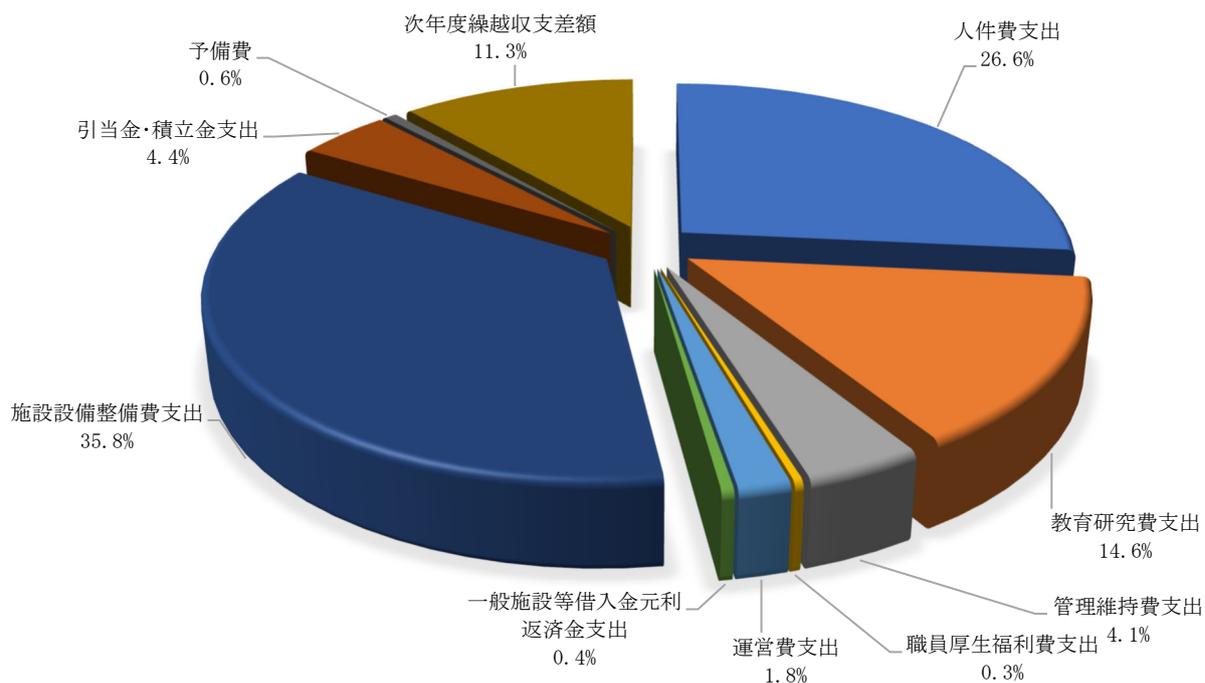
[9] 予備費 [360,000 千円]

[10] 次年度繰越収支差額 [6,949,882 千円]

## 2024（令和6）年度 事業目的別収入予算内訳



## 2024（令和6）年度 事業目的別支出予算内訳



## 2 資金収支予算

### 資金収支予算書総括表(法人全体)

2024(令和6)年4月1日から  
2025(令和7)年3月31日まで

#### 収入の部

(単位:千円)

科目	予算額	前年度予算額	差異
学生生徒等納付金収入	25,824,586	25,685,163	139,423
手数料収入	1,537,975	1,509,279	28,696
寄付金収入	344,508	363,162	△ 18,654
補助金収入	5,305,724	4,973,349	332,375
資産売却収入	100,000	1,300,000	△ 1,200,000
付随事業・収益事業収入	367,392	373,298	△ 5,906
受取利息・配当金収入	1,129,324	1,040,328	88,996
雑収入	520,011	721,358	△ 201,347
借入金等収入	17,000,000	3,000,000	14,000,000
前受金収入	4,137,152	4,248,105	△ 110,953
その他の収入	2,621,959	5,197,751	△ 2,575,792
資金収入調整勘定	△ 5,751,482	△ 5,665,406	△ 86,076
前年度繰越支払資金	13,836,315	16,137,891	△ 2,301,576
収入の部合計	66,973,464	58,884,278	8,089,186

#### 支出の部

(単位:千円)

科目	予算額	前年度予算額	差異
人件費支出	16,490,417	16,437,253	53,164
教育研究経費支出	10,293,822	11,208,549	△ 914,727
管理経費支出	2,086,056	2,051,309	34,747
借入金等利息支出	31,679	14,695	16,984
借入金等返済支出	238,324	262,324	△ 24,000
施設関係支出	20,675,778	9,347,763	11,328,015
設備関係支出	1,185,279	809,500	375,779
資産運用支出	2,847,116	4,349,511	△ 1,502,395
その他の支出	503,224	551,949	△ 48,725
[予備費]	360,000	320,000	40,000
資金支出調整勘定	△ 270,945	△ 304,890	33,945
翌年度繰越支払資金	12,532,714	13,836,315	△ 1,303,601
支出の部合計	66,973,464	58,884,278	8,089,186

### 3 事業活動収支予算

事業活動収支予算書総括表(法人全体)

2024(令和6)年4月1日から  
2025(令和7)年3月31日まで

(単位:千円)

(単位:千円)

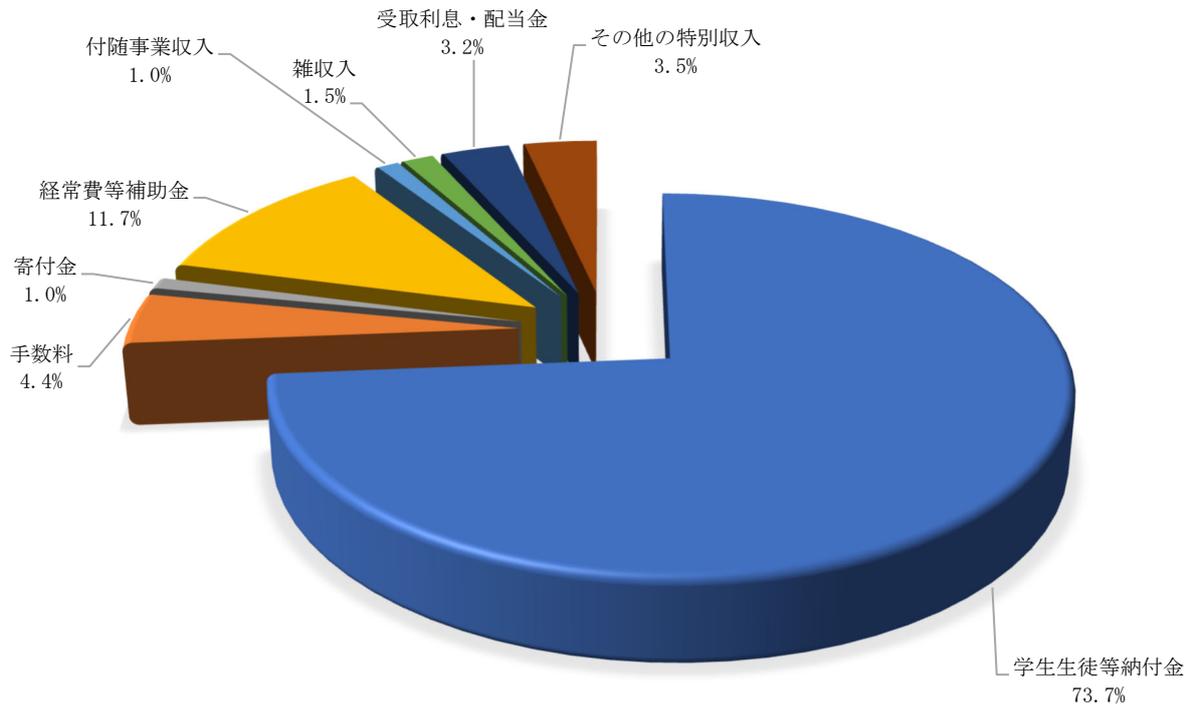
科目		予算額	前年度予算額	差異	
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	25,824,586	25,685,163	139,423	
	手数料	1,537,975	1,509,279	28,696	
	寄付金	341,508	362,371	△ 20,863	
	経常費等補助金	4,098,116	4,359,075	△ 260,959	
	付随事業収入	367,392	373,298	△ 5,906	
	雑収入	520,011	721,358	△ 201,347	
	教育活動収入計①	32,689,588	33,010,544	△ 320,956	
	事業活動支出の部	人件費	16,462,753	16,517,358	△ 54,605
		教育研究経費	13,030,585	13,907,272	△ 876,687
		管理経費	2,169,995	2,143,038	26,957
徴収不能額等		0	0	0	
教育活動支出計②		31,663,333	32,567,668	△ 904,335	
教育活動収支差額	1,026,255	442,876	583,379		
科目		予算額	前年度予算額	差異	
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	1,129,324	1,040,328	88,996	
	その他の教育活動外収入	0	0	0	
	教育活動外収入計③	1,129,324	1,040,328	88,996	
	事業活動支出の部	借入金等利息	31,679	14,695	16,984
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計④	31,679	14,695	16,984
	教育活動外収支差額	1,097,645	1,025,633	72,012	
経常収支差額	2,123,900	1,468,509	655,391		

科目		予算額	前年度予算額	差異
特別収支	事業活動収入の部			
	資産売却差額	0	132,053	△ 132,053
	その他の特別収入	1,216,787	645,947	570,840
	特別収入計⑤	1,216,787	778,000	438,787
	事業活動支出の部			
	資産処分差額	133,634	1,727,579	△ 1,593,945
	その他の特別支出	0	0	0
	特別支出計⑥	133,634	1,727,579	△ 1,593,945
	特別収支差額	1,083,153	△ 949,579	2,032,732
	[予備費]⑦	360,000	320,000	40,000
基本金組入前当年度収支差額	2,847,053	198,930	2,648,123	
基本金組入額合計	△ 3,033,896	△ 5,397,369	2,363,473	
当年度収支差額	△ 186,843	△ 5,198,439	5,011,596	
前年度繰越収支差額	△ 17,489,757	△ 12,291,318	△ 5,198,439	
基本金取崩額	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 17,676,600	△ 17,489,757	△ 186,843	

(参考)

事業活動収入(旧 帰属収入)計 (①+③+⑤)	35,035,699	34,828,872	206,827
事業活動支出(旧 消費支出)計 (②+④+⑥+⑦)	32,188,646	34,629,942	△ 2,441,296

## 2024（令和6）年度 事業活動収入内訳



## 2024（令和6）年度 事業活動支出内訳

